

夏季限定！静かで厳かな
境町の議場を自習室として開放中！

境町では、昨年に引き続き境町役場5階にある議場を自習室として開放しています。町の政策が決定する厳かな雰囲気の中で勉強しませんか。静かで涼しい環境です。中学生以上の学生なら、町内外問わず利用できます。期間は、8月23日(金)まで、土・日・祝日及び13日～16日のお盆期間を除きます。



齊藤来愛さん
(境一中3年)
学校で議場開放のポスターを見て初めて来ました。家とは違う雰囲気で勉強はかどります。



利用席数は35席。涼しい議場には、連日、宿題や受験勉強に励む学生の姿が見られています。



秋原奏さん
(境一中3年)
とても静かで夏休みの宿題に集中して取り組みました。また議場に勉強に来たいです。

6/25

東京大学で「母子支援防災シンポジウム」
災害時の母子支援について報告！



講演とパネルディスカッションを行った橋本町長

東京大学山の上会館において開催された「母子支援防災シンポジウム～乳幼児支援のための備蓄と液体ミルクのあり方～」(主催/NPO法人子連れスタイル推進協会)に、橋本町長が招かれ登壇しました。橋本町長は、災害時の乳幼児と母親への支援の実例として、ふるさと納税の仕組みを活用して授乳服や宿泊設備となるコンテナを被災地に送った取り組みを紹介しました。また、液体ミルクは、取り扱いに専門知識と周知が必須であることに触れたうえで、境町では備蓄を計画していること、さらに、消費期限をむかえる液体ミルクは、給食に活用するというアイデアを発表しました。

参加者からは、災害の多い日本では、連携の構築がとても大切であること、災害備蓄食品のロス無くすため学校給食に液体ミルクを活用する試みは非常に先進的であり驚いた、などの感想がありました。

東京大学山の上会館において開催された「母子支援防災シンポジウム～乳幼児支援のための備蓄と液体ミルクのあり方～」(主催/NPO法人子連れスタイル推進協会)に、橋本町長が招かれ登壇しました。橋本町長は、災害時の乳幼児と母親への支援の実例として、ふるさと納税の仕組みを活用して授乳服や宿泊設備となるコンテナを被災地に送った取り組みを紹介しました。また、液体ミルクは、取り扱いに専門知識と周知が必須であることに触れたうえで、境町では備蓄を計画していること、さらに、消費期限をむかえる液体ミルクは、給食に活用するというアイデアを発表しました。

7/16

圏央道4車線化建設現場見学会で
猿島小5年生が建設業界の仕事体験

猿島小学校の5年生を対象に、圏央道4車線化建設現場見学会(国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所、キムラ工業株式会社主催)が行われました。この見学会は、「圏央道4車線化」に向けた地盤改良工事としては初となり、現場見学を通して、建設業界の次世代育成を目指すものです。

当日は、5年生43人が、重機の試乗体験や高所作業車体験、セメントを使ったキーホルダー作りなどを体験し、子ども達の興味関心が深まる見学会となりました。



重機の試乗体験では、お土産付きの魚釣りを実施

セメントを好きな型にはめてキーホルダーを制作



ドローンを使って記念撮影をする様子

6/11

「第15回水害サミット」で橋本町長が
防災・減災のあり方を全国に発信！

42市町村長及び国土交通省が参加する「第15回水害サミット」(同実行委員会、毎日新聞社主催)が開催され、橋本町長が出席しました。水害サミットは、水害を経験した全国の首長が集い、意見交換や提言等を行う場として平成17年から毎年開催されています。本年は「被災経験を復興対策」に生かすために「住民主体の防災対策の転換」に向けて、石井国土交通大臣や当町防災アドバイザーである片田教授が参加し、事例検討や活発な意見交換が行われました。

橋本町長は、利根川決壊時には境町の90%が浸水し甚大な被害が予想されているため、「自らの命は自ら守る」ために危険が迫る前に自主的な「広域避難」を最も重要なポイントとして定め、町の「広域避難」に関する



広域避難の重要性について報告する橋本町長

支援体制作りとして「水害逃げ時マップや水害避難タワーの整備」「広域的な自治体間の連携の必要性」について報告しました。

KID'S NEWS
6/25

「本宮大杉大神」祭礼
神輿出しや囃子太鼓を披露



若林新田地区において、「本宮大杉大神」祭礼が行われました。毎年6月2週目(今年は3週目)の土曜日に、家内安全、五穀豊穰、交通安全等を祈願し開催されています。

今年の祭礼当日は、あいにくの雨で、規模が縮小となりましたが、50名ほどが集まり神輿出しや囃子太鼓が行われました。このお囃子は地域の小学校3年生から6年生を対象に「大杉囃子保存会」が中心となって指導を行っています。

伝統文化を後世に伝えていくためにも保存会をはじめ若林新田地区の更なる繁栄を祈念いたします。



染谷良一会长

保存会では伝統の囃子を継承するために子どもたちへのお囃子指導を中心に取り組んでいます。保存会を未来に繋げられるよう後継者育成に力を入れていきたいです。



(写真左) 飯田唯菜さん

太鼓はリズムを覚えることが難しいです。終わった後にミニイベントがあり、みんなとわいわいするのが楽しいです。

(写真右) 羽鳥美来さん

小6なので、今年が囃子太鼓を奏でる最後の年となり寂しいです。このお祭りがずっと続いてほしいです。

7/12

茨城県初!! 財務省教育プログラム
静小児童が予算づくりに挑戦

静小学校において、財務省の水戸財務事務所による国の予算の仕組みなどを学ぶ特別授業が実施されました。この授業は、財務省が全国の小中学校で行っている財務省教育プログラムの一環であり、県内の公立小学校では初めての実施となります。

静小6年生18人が参加した教室では、関東財務局の担当者がクイズ形式で医療などの公共サービスを支える財政の役割を説明。その後、5班に分かれ、人口100人で予算規模100万円の「日本村」の予算編成を議論し、タブレット端末を使って予算をまとめました。予算案のテーマに「平和」を掲げた班は、防衛費や地方への交付金を増やす一方で、教育費を減額し、財源は法人税を増やすことで確保するなど、各班で様々な税収の増減や支出を工夫しつつ、借金を減らすことについても考えていました。



タブレットを使いながら予算編成に挑戦する児童たち



松本陽菜さん
(志鳥)

税金の大切さを学ぶとともに、財政を考えることは、大変だと思いました。

7/11

学校給食に白いとうもろこし
「雪の妖精」が登場

地産地消や食育への理解を深めるために、境町内の白いとうもろこし「雪の妖精」を給食で提供しました。「雪の妖精」は希少性の高い品種で、甘めのメロンやスイカと同程度以上の糖度があり畑のスイーツと呼ばれています。

当日は、町内小中学校7校の児童生徒・教職員ら計2,059人に雪の妖精が入ったサラダが提供され、生産者の金久保さんも地元の静小で給食を楽しみました。



一緒に給食を楽しむ静小5年生の児童と生産者の金久保さん



金久保貴哉さん
(志鳥)

子どもたちと一緒に食べながら、直接感想も聞くことができ良かったです。普通のとうもろこしとの違いを分かってもらえればうれしいです。



金澤準汰さん
(塚崎本田)

見た目もきれいで、果物よりも甘かったです。採れたてを生で食べてみたい!



島根梓花さん
(横塚)

初めて食べましたが、甘くてやわらかくて、とても美味しかったです。